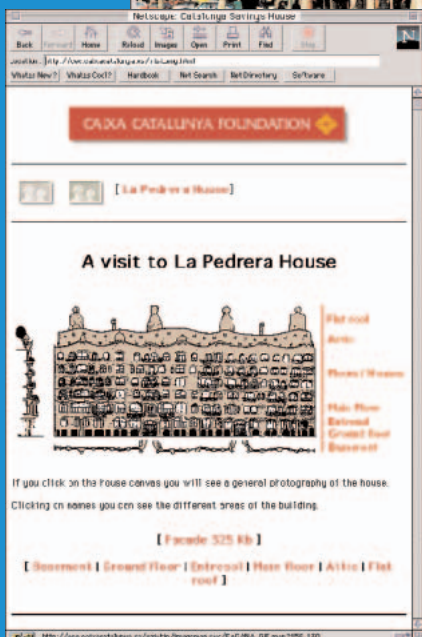
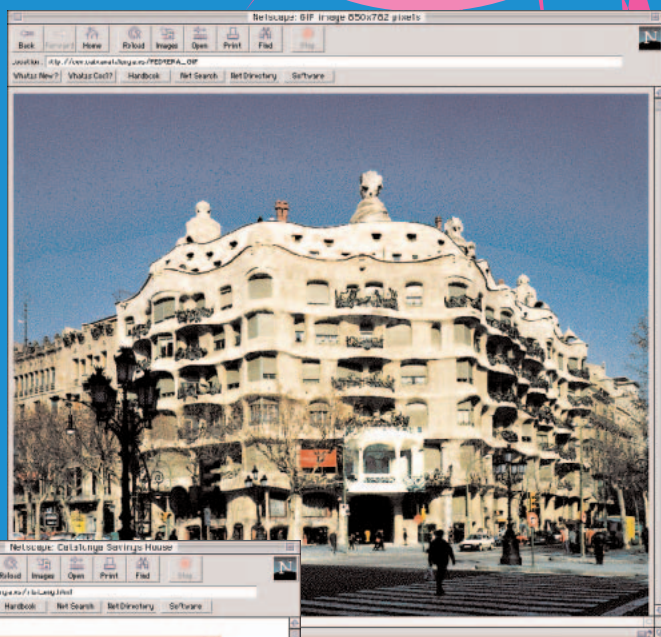


What's Cool

今泉 洋の



日本語ガイドが登場か？ 異才ガウディの分岐した未来空間 Catalunya Savings Bank

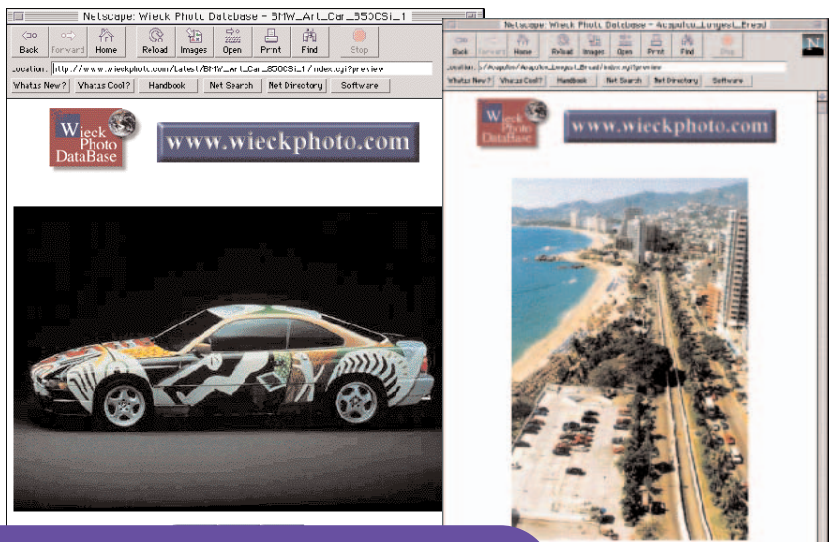
URL http://cec.caixacatalunya.es/fund_eng.html

外国を旅行していて、とんでもないところで日本語を見つけたりするとうれしいのが何なのか、複雑な気持ちになってしまう。そんな思いをネット上で体験してしまったのが、このカタリニャ貯蓄銀行が支援する財団のホームページ。なんと、外国のウェブには珍しく日本語の表示があるではないか（調査時点では残念ながら工事中で近日公開の予定）。

それはともかく、このウェブページの売りは未完の大作サグラダ・ファミリア教会で知られるスペインの建築家、アントニオ・ガウディの集合建築 La Pedrera House。曲線や曲面を駆使し、多彩な装飾を施して幻想的な空間を作り出した彼独特の世界を、ファサードはもちろん、屋上の飾りから地下室に至るまで見ることができる。

残念ながら写真は各階ごとの

平面図（こういう建物の平面図そのものも興味深い）に示された複数のポイントで撮影した平板なもので、QTVRのような全周映像であれば……と思わずにいられないが、とにかくこのストレンジでクールな造形は一見の価値あり。というより読者には、こういう異才の作品が建物としてちゃんと存在できる社会自体に快い感激と畏敬の念を抱いて欲しいものである。



意外に面白い企業の広報写真データベース Wieck Photo DataBase

URL <http://www.wieckphoto.com/>

最近、インターネット、特にウェブを利用したニュースサービスはかなりの盛り上がりを見せ、内容も充実してきているが、残念なのはほとんどのものがテキスト中心だということ。少なくとも企業が発表する新製品などは「見せたい」「見てもらいたい」のだからもっとビジュアルな情報が出てきてもいいはずなだけ

ど.....と考えていたら、こんなページを発見。このページは主に企業がPRブシティー用としてマスメディア向けに配布している画像を集めたものだ。

収録されているのは、自動車メーカー、一般企業、旅行関係のビジュアルソース（写真のみならず調査結果をまとめたグラフなどもある）で、

さらに「本日到着分」というページや検索機能もある。

なかでも掘出し物は自動車メーカーの提供している車の写真。独立したカテゴリーとして用意されているだけあって、これだけほとんどのメーカーの写真資料が揃うサイトはほかにないだろう。

プリント用のハイレス画像はプレス向けなのでパスワードが必要だが、ながめるだけならプレビューレベルでも十分のクオリティー。

このウェブページは2月4日から17日までの間、ヒューストンの美術館で開かれたチベットのラマ僧による砂の曼陀羅づくりの一部始終を収録したものである。

ダライ・ラマのおかれた政治的立場もあってか、西欧の

と、ブラウン管上で見るということもあるのか、まさに発光する鮮烈な万華鏡の世界。また、この作成から撤収までの全プロセスを細心の注意を持って記録しようとしたウェブ制作者は曼陀羅制作現場だけにとどまらず、例の衣装をまと

ウェブにひときわ映える チベット・ラマ僧の描く砂の曼陀羅 Virtual Voyager at the MFA

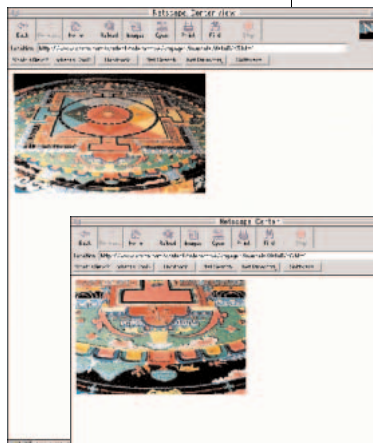
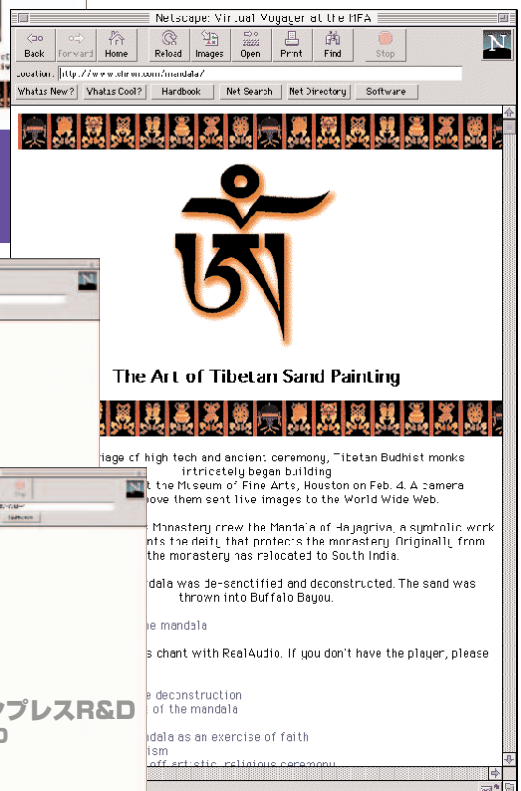
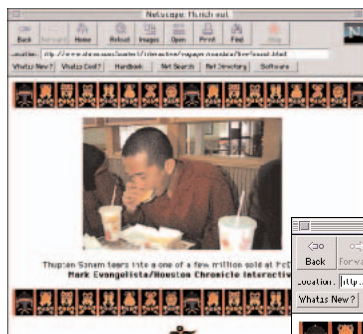
URL <http://www.chron.com/mandala/>

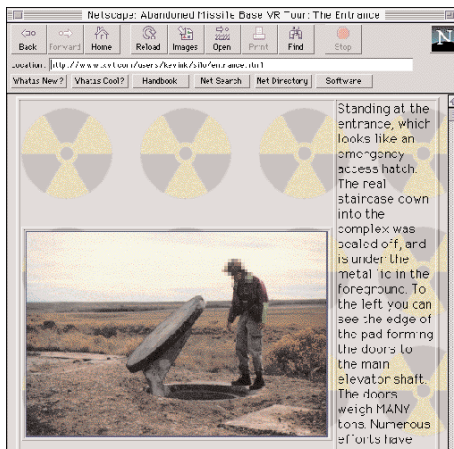
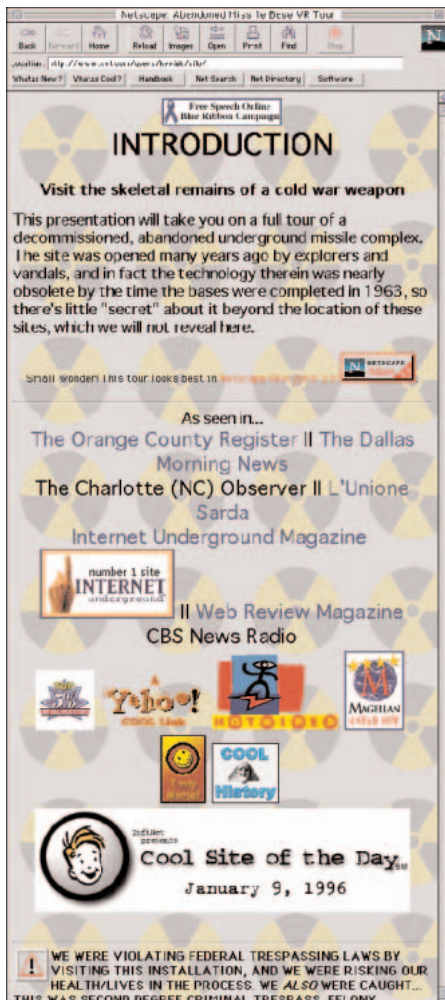
インテリたちにとって、チベットのラマ僧たちは東洋の精神世界を強く感じさせる神秘的な存在として認知されている。衣装といふ種彩色の曼陀羅といふ、仏教神秘的ビジュアルなプレゼンテーションという意味では、来館者やページの制作者が大きな期待を持ってこのイベントに臨んだことは明らかだ。

果たしてその成果はと言う

いながらマクドナルドでハンバーガーをパクつくラマ僧の様子までを収めるなど、非常に興味深いドキュメンタリーに仕上がっている。

それにしても、ヒューストンあたりのアメリカ人にとっては、せっかくできあがった美しい曼陀羅を崩してしまう、それを川に流すという「非合理」な行為そのものが神秘的に見えるたんだろうな~。





スクープ 地下秘密ミサイル基地潜入リポート？ Abandoned Missile Base VR Tour

URL <http://www.xvt.com/users/kevink/silo/>

ある年ごろの男の子にとって、「地下」「秘密基地」という言葉は特別な響きを持っているものである(なぜって分かるよね?)。大人になるにしたがってそんなバカなことを考える気もなくなるはずのだが、冒険家というのは相変わらずそのころの心躍る感覚を追い求めている人なのかもしれない。

自称冒険作家・写真家の2人(実はソフト会社社員)が

潜入したのは冷戦時代の遺物、軍のミサイルサイト。このページは写真で施設の様子をあまなく白日のもとにさらす快挙。

とは言うものの、施設の中身から考えると60年代にはその機能を終えたと思われる代物。また残された落書きから、80年くらいまでは地元のフルガキたちが入り込んでいたらしい。となると、秘密でも何でも無いということになってしま

うのかもしれないが、民間に払い下げられたものに入るのは明らかに不法侵入。下手をするとショットガンで武装した地主が出てくることもあるし、放射性物質の残骸が残っている可能性もあるというからまったく安全というわけでもない。

しかし、考えてみるとウェブというのはドキュメンタリストにとって最高の発表の場でもあるんだよね~。

圧巻！ 21万本のソフトウェア資産へのアクセスガイド shareware from shareware.com -- the way to find shareware on the Internet

URL <http://www.shareware.com/>

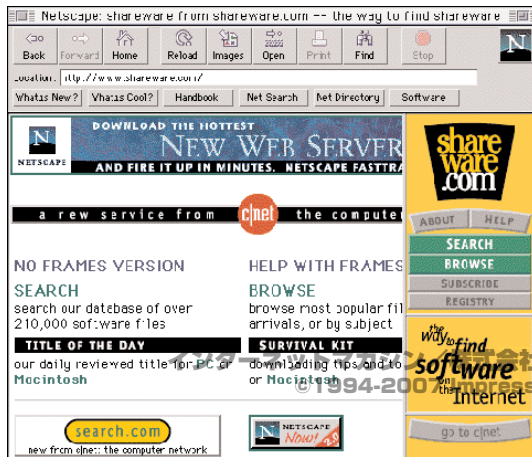
ウェブのおかげで本格的にパソコンの利用法に目覚めたという人には意外かもしれないが、インターネットは実はシェアウェアの宝庫なのだ.....というようなことを書くと、「何を今さら」とおっしゃる方もおられるだろうが、シェアウェアというのは雑誌の付録CD-ROMに入ってくるものだが、プログラムを持ってくるにはftpだのfetchだの、特別

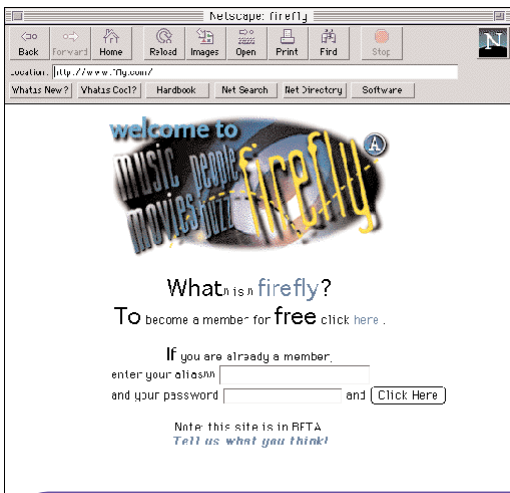
のクライアントが必要だと思っ込んでいる初心者が多いのもまた事実。

そんな人にぜひお勧めしたいのがこのページ。米国を中心に21万本のシェアウェアを収録し、検索サービスや人気ランキング、注目ソフトの紹介、ネット探索に不可欠なお勧めソフトを集めたサイバイブルキット、それぞれのソフトについてのちょっとした解説までが

簡潔にまとめられている。また、世界中のアーカイブサイトのどこからダウンロードするのが一番確実かまでをアドバイスしてくれるという至れり尽くせり状態。

さらに、c/netや主要な検索エンジンをまとめた(と簡単に紹介してしまうには惜しい) search.comへのリンクもあり、まずはブックマークに登録しておいて損はない。





ネットならではの 自己増殖する (はずの) ビジネスフレーム
firefly

URL <http://www.ffly.com/>

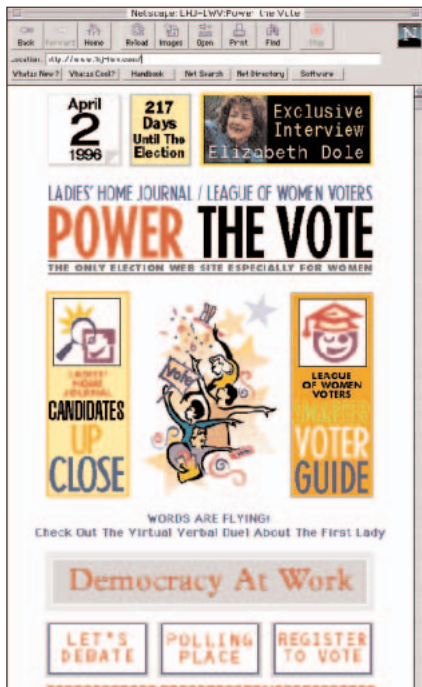
おおざっぱに言えばFireflyは、自分の好きなものを選んでいくと、コンピュータが自動的にお勧めのCDや映画などを紹介してくれるというサービス。こう書くと、「Similarity Engine」と同じということになってしまうが、実は見逃すことのできな大きな違いがある。それはベースとなるデータの扱い。

音楽を例にとると、ユーザーはサンプルとして出されているCDタイトルやアーティストを「大嫌い」～「最高」までの7段階で評価する。Fireflyはこのデータをもとにユーザーが気に入りそうなCDタイトルなどを推薦してくれる。もちろん評価した数が増えるほど正確になるわけだが、問題なのはアウトプットがどこで生成されるかだ。

Fireflyがユニークな点は、ユーザーがランク付けで入力するデータを、ほかの人が自

分の好みに近いものを探るときに利用する点。つまり、ベースデータをユーザーに供給させ、次第にデータ数を増やして好みの精度を上げるという仕組みである。これ以外にも同じ趣味嗜好の人同士を結び付けたり、特定の趣味の人に特定の広告を出すなど、さまざまな試みも行っている。

利用者のインプットするデータを編集し直して提供する仕組みそのものをビジネスにしようとするネットならではの試みとして高く評価したい。



米大統領選挙のもう1つの話題 ファーストレディの資格?
LHJ-LWV: Power the Vote

URL <http://www.lhj-lwv.com/>

昨年12月号でも取り上げたように、おそらく今年はインターネットが大統領選挙に大きな影響を与えた初めての年として歴史に記録されるに違いない。すでにこれまで、多くの大統領候補のサイトが(パロディー版も含めて)誕生しては消えていった。しかし、一方でますます盛り上がりを見せているのが、米婦人誌「Ladies Home Journal」と女性有権者同盟が共同で運営しているこのページだ。

サブタイトルで「女性のための唯一の選挙ウェブ」と言うように、参加者が女性であることは当たり前。基本的には「ちゃんと登録しましょう」(米国は投票するためには事前に登録が必要)といった、政治への啓蒙活動が中心になっているが、面白いのは大統領候補その人についてうんぬんするよりも、「どちらの候補の妻がファーストレディにふさわしいか」(残念ながら民主、共和党とも候補は男なので)

という議論がされているところ。確かに「参加」を重視する米国では、同性としてどんな人物が自分たちの代表となるのかは大きな関心に違いない。それにしても、そのうち女性大統領候補が出てくることになるんだろうが、そのときは男どもが「あの男は国を代表するファーストハンドとしてふさわしいか?」なんて議論する時代がくるんだろうか?

群雄割拠状態の米国サイバーカルチャー 1996年のスターは?

Welcome to VIRTUAL CITY MAGAZINE ONLINE

URL <http://www.virtcitnow.com/>

ウェブを見ていて思うのは、日米のあまりの格差。何が違うかというと、ウェブ上で発行される電子雑誌「E-Zine」の量と内容の充実度だ。

日本でもホームページを持つ個人が増えてきて面白いものが出てきてはいるが、まだまだこれからといった状態。その点、アメリカのサイバーカルチャーはやっぱり広くて深い(もっとも国別比較なんかして

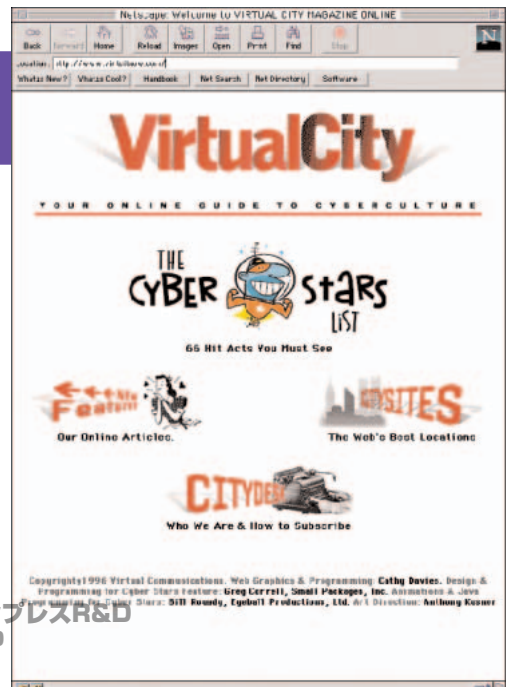
なんの意味があるのかもと思うが)。

このページもそうしたE-Zineの1つだが、今回注目なのが「サイバースターズリスト」というコーナー。

サイバーカルチャーに一家言あるE-Zineの編集者、次々に新人を世に送り出すディレクトリーサービスの主宰者、音楽関係のウェブで活躍する(DJならぬ)E-Jay、女

傑のお姉さま方、サブカルな有名人から奇人、変人の類まで、ウェブ上で目立ってしまうあらゆる人物66人をちょっと斜に構えながら、その内容やファン層、コメントとともに紹介しているページである。

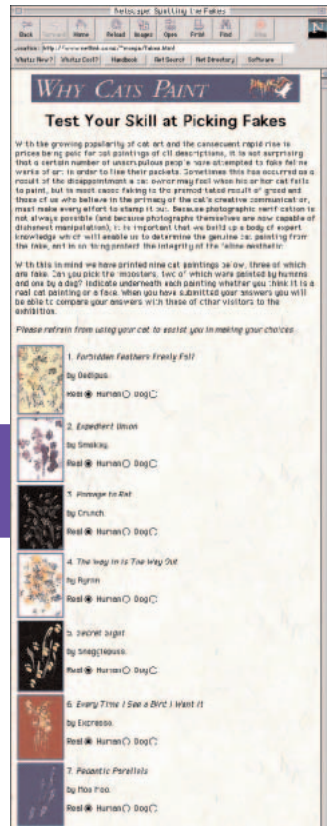
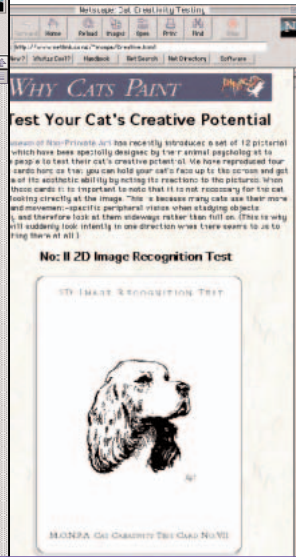
ネット上のスラングが多くて不慣れな人には読みにくいかも知れないが、まずE-Zine文化の入門ページとしてはお勧めだ。



時々、思わずうなってしまうウェブページというものがあるが、今月出会ったものの中で最高に変なのが「え？猫が絵を描くの？」とでも訳してしまいそうなこのページ。もちろん、飼い主の愛情ゆえに「猫って本当はお利口で、絵まで描けてしまうんですの」という類のものではない。

70年代半ば、それまで主にチンパンジーなど霊長類の絵画行動を観察していた某研究者氏が、非霊長類の同種の行動についてあまりに知らなにとに気づき、それ以来、もぐらや種馬、鳥などの行動をアートの表現としてとらえるところから始まったのが「非霊長類の美術館」。そして、その一翼を担うのがこのページなのである。

まずは、毎日日替わりで世界中から報告される「絵画す



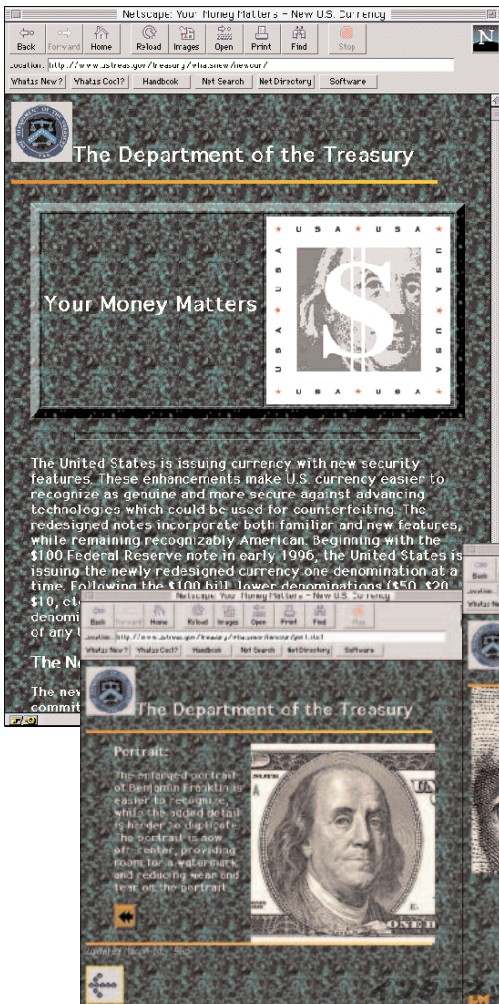
知らなかったのは私だけ？ 世界中で話題(?)の猫の描くアート Why Cats Paint

URL <http://www.netlink.co.nz/~monpa/>

る猫」の写真、彼(彼女)の描いた作品データ、アーティスト猫の紹介とその作品の想定価格(!)。そのほかにも、本物の猫の絵と偽物の見

分け方、あなたの猫の潜在的創造力テスト(ついでに飼い主用の批評能力テストもある)、猫がアートするプロセスを撮影したムービーなど、ど

れも衝撃的な内容。猫っかわいがり片付けてしまうには、あまりにも本格的。猫よりは作っている人間の方に興味がわくページである。



米財務省 ウェブ上での新100ドル札キャンペーン Your Money Matters - New U.S. Currency

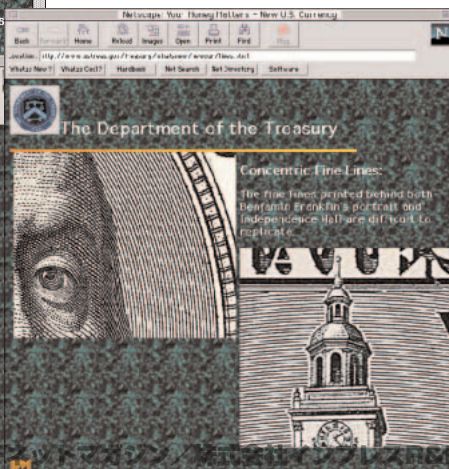
URL <http://www.ustreas.gov/treasury/whatsnew/newcur/>

日本政府の情報公開促進を願ってお送りする「Cool Government キャンペーン」の第二弾(って1人でやるだけですが)、先月ご紹介した米内閣入庁のフレンドリーな確定申告ページに続いて、今月は財務省のウェブページである。

と言っても別に大がかりなことをやってるわけではない。最近偽造防止を狙って出された100ドルの新札についてのお話である。大きくなってセンターからオフセットされたベンジャミン・フランクリンの肖像や透かし、色の変わるインク、超微細印刷部分や紫外線

札についてのFAQなどが画像を使っていないに解説されている。

作りは極めてシンプルだが、カタい内容でも見せ方次第で面白く知識を広めることができる。「うちには公開するような面白い情報はないからな~」なんて言っていないで、とにかく興味を持ってもらわなきゃ、というところから始める。そんなお手本みたいなページである。ま、大蔵省造幣局もこれくらいのことばやらないと、円が国際的な通貨になるなんて先の話なんじゃないの？





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp